



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

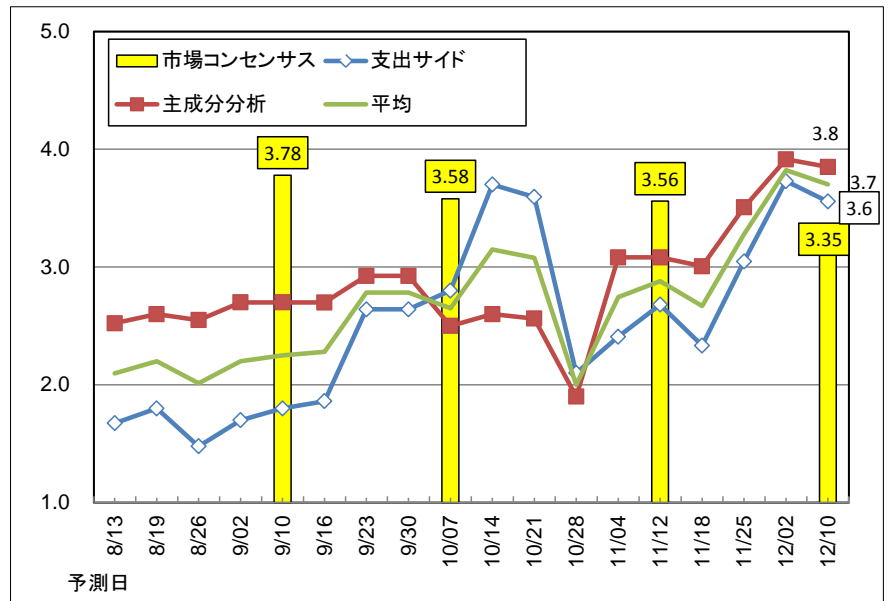
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年12月10日)

ポイント

- ▶2次速報値によれば、7-9月期の実質GDP成長率は前期比年率+1.1%となり、1次速報値から0.8%ポイントの下方修正。
- ▶同時に発表された12年度の実質GDP成長率(確報値)は速報値から大幅に下方修正された。原因は公的固定資本形成で、信じがたい修正幅となっている。結果、12年度の成長のドライバーは公共投資でなく民間需要であったことが判明した。
- ▶注目していた10月の消費総合指数は前月比4ヵ月ぶりのマイナスとなった。ただ実績は7-9月平均比+0.3%高い水準となっており、10-12月期最初の月としては悪くない。10-12月期の景気は着実に回復している。
- ▶超短期モデル(支出サイド)は10-12月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.6%と予測。純輸出は前期比横ばいとなるが内需の寄与は前期から拡大するためである。先週の実質GDP成長率予測から小幅下方修正。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年10-12月期(%, 前期比年率換算)



<2012年度GDP確報値は大幅に下方改訂。成長ドライバーは公共投資ではなく民間需要であることが判明>

12月9日発表のGDP2次速報値によれば、7-9月期の実質GDP成長率は前期比年率+1.1%となり、1次速報値(同年率+1.9%)から0.8%ポイントの下方修正となった。また過去に遡ってデータが改訂された結果、特に2012年4-6月期-1.2%ポイント、1-3月期-1.5%ポイントと大幅に下方修正されている。2012年度確報化に伴い大幅な下方修正が生じている。

7-9月期2次速報値と同時に2012年度の確報値が公表された。驚くべきことに実質GDP成長率は速報値の1.2%から0.7%へと比較的大きな下方修正となった。2012年度の成長率が大幅に下方修正された原因は公的固定資本形成の大幅下方修正(+14.9%→+1.3%)である。信じがたい修正幅といえよう。今回の改訂で2012年度の成長のドライバーは公的需要ではなく民間需要ということになる。

注目していた10月の消費総合指数は前月比-0.2%低下し4ヵ月ぶりのマイナスとなった(事前予測-0.3%)。ただ10月実績は7-9月平均比+0.3%高い水準となっており、10-12月期最初の月としては悪くない結果である。7-9月期は減速したが、10-12月期の景気は着実に回復している。

今回(12/2-12/9)に予測に更新されたデータは、11月の財政資金対民間収支、10月の消費総合指数、情報サービス業売上高及び国際収支状況である。結果、超短期モデル(支出サイド)は10-12月期の実質GDP成長率を前期比+0.9%、同年率+3.6%と予測する。純輸出は前期比横ばいとなるが内需の寄与は前期から拡大するためである。先週の実質GDP成長率予測(+3.7%)から小幅下方修正となった。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690